

### 1 自己評価及び第三者評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2891500122		
法人名	医療法人 いちえ会		
事業所名	グループホーム いちごの家・上物部		
所在地	兵庫県洲本市上物部951番地1		
自己評価作成日	平成28年12月25日	評価結果市町村受理日	平成29年3月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人福祉市民ネット・川西		
所在地	兵庫県川西市中央町8-8-104		
訪問調査日	平成29年1月25日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

利用者一人ひとりの思いを尊重し、個別に支援している。毎日がゆとりのある生活ができ、安心して過ごせるよう努めている。利用者・家族・地域住民との出会いを大切に思い、良い関係を築けるよう努めている。

**【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

法人は地域包括ケアシステムの構築へ向け取り組んでおり、各事業所や病院と連携し地域貢献を目指している。その中で事業所はグループホーム本来の機能を発揮し、利用者同士が個々に残存機能を生かしつつ、伸びやかな共同生活が行われている。職員は、利用者が調理や買物、洗濯物干しなどの共同作業とともに、一人で勉強や趣味の時間を過ごしたり、居室でテレビを見るなどプライベートな時間も自由に選択できるよう支援している。広い敷地内に小規模多機能、子育て支援ハウスを備え、合同でイベントを開催したり、庭では園児とボール遊びの交流やテラスで園児の様子を見るなど、利用者の癒しの時間となっている。地域交流として毎週行われている100歳体操は、多くの住民参加があり盛況となっており、今後も門戸の開放により、より地域交流や事業所の周知につながることを期待したい。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および第三者評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	者 第 三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念である「一期一会の心を持って・・・」の一期一会を念頭に置き、利用者・家族・地域住民との出会いを大切に思い実践に思い実践につなげている。	理念にある一期一会から事業所名が付けられた経緯もあり、理念を大切に共有している。28年度は法人全体で「目配り・気配り・心配り」を合言葉として、中長期的目標を掲げ具体的な計画を策定している。事業所は年間目標を立て実践につなげる努力をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	納涼祭など同法人内での行事参加を通して交流を図っている。地域の清掃にも参加し散歩時は挨拶を交わし会話することもある。近くの幼稚園と行事などの交流を図っている。当施設を開放し地域の皆さんと百歳体操をしている。	自治会に加入し、消防訓練を地域と共に実施する、利用者と共に地域周辺掃除を定期的に行うなどの活動を行っている。法人主催の夏祭りや、事業所内で開催される100歳体操に会場に入りきれないほどの参加者があり盛況である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議での議題として利用者様の訴え時の対応法・対応後の様子などを話し合っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域、市、家族の助言や要望などを聞き、サービスの質の向上に努めている。運営推進会議の内容を全家族様に報告している。	自治会、町内会、市職員、認知症を支える会、家族の参加がある。特に議題は決めていないが、報告や情報交換の場として、それぞれの立場から活発な意見や要望が出されている。最近では家族から病気についての学習会を開いて欲しいとの意見があり検討している。	会議のテーマや議事内容をあらかじめ決めて事前に伝達(案内送付)することで、参加者の増加、さらには、より充実した会議になるのではないだろうか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議にてホーム内の課題、実情を伝え相談している。	運営推進会議以外でも、できるだけ市役所に出向き、議事録を直接手渡したり相談を行い、顔が見える関係を大事にしている。顔馴染みになることで、気軽に相談できる良好な協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	居室の扉の鍵は利用者が望まない限り鍵をかけない。玄関の鍵は、朝から夕方まで開錠している。利用者が玄関の方へ行き、外出希望された時は、散歩に行くなど対応している。	虐待防止委員会が中心となり、定期的に研修会を開催している。事例を通して学ぶなど、身体拘束をしないケアを徹底している。食事時のエプロン着用について、利用者尊厳の立場から検討し改善した。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部での研修会、同法人内の勉強会へ参加しており、参加した職員は後日、全職員に公表している。日々、過ごしている中で職員の対応や利用者の様子で変化がないか気を配っている。	職員は虐待について定期的に学び、虐待の内容を理解し、不適切な声かけや対応にならないよう相互に注意している。管理者は職員の様子をみて気になる時は随時面談を持ち、ストレス回避に努めている。	

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部での勉強会などへ参加し、必要な方には資料を提供し説明している。施設でも勉強会を行い、全職員の知識を高めるよう努めている。	現在利用者はいないが、毎年研修会を開催し、職員は制度の内容や必要性について理解している。利用者へ必要に応じた支援ができるよう、資料は整えている。	
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者や家族の不安や疑問に対し解りやすく説明しカンファレンスを行い対応している。解約又は改定の際は資料を変更し、詳しく説明している。各利用者、各家族に合った説明を行うよう心掛けている。	緊急の入居希望も多いが、できる限り事業所を見学してもらい、面談のうえ契約している。医療関係や利用料など具体例を紹介し、事業所の方針を分かりやすく工夫して説明している。場合によっては他の選択肢も情報提供している。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が面会に来られた時に困っている事、要望などを聞き取りカンファレンスを行い対応している。運営推進会議に出席された家族には意見や要望を発して頂くよう努めている。	運営推進会議、家族懇親会や面会来訪時に要望を聞いている。遠方の家族には電話で利用者の報告時に話を聞いている。最近では講習会開催の要望が出た。個別に意見や要望を傾聴する場の設定(担当者会議を含む)や特にアンケート等は実施していない。	遠方、又は意見や要望が少ない家族の意見や要望を知るために、定期的な面談やアンケートなどの工夫をされてはどうか。
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回カンファレンスを開き意見交換している。管理者は常に全職員とコミュニケーションをとり意見を提案できるような雰囲気作りにも努めている。定期的に全職員と個別面談を実施している。	職員は、日々の朝礼や昼礼、毎月のカンファレンスに加え、管理者による定期的な個別面談の場で発言できる機会があり、意見や提案が出しやすい関係性が構築されている。食事メニューの提案やケアの方法などの意見があり、反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得に伴い、手当等支給や昇格を実施している。管理者は全職員の勤務状況を把握し、向上心を持って働けるよう目標を設定し勤務できるよう整備している。管理者は定期的に職員個々と面談している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内(月4回程度)の研修に参加したり併設施設との勉強会を開催し、自分達で資料を作る事により知識も深まっている。法人外との合同の勉強会も開催している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	入所申込者等の確保、情報提供を定期的に連絡を取り、交流を図っている。島内のグループホーム、小規模で交流会を行っており、合同の研修も行っている。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15			○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所申込み時や契約時は、丁寧に本人や家族への聞き取りを行い、ケアプランには本人の要望を聞き入れている。家族が遠方の利用者には特に耳を傾け安心できるように努めている。		
16			○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ケアプランには本人、家族の要望を取り入れている。家族との外出時の様子、困ったことを尋ね、家族が安心して過ごせるような関係づくりに努めている。		
17			○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	契約時に本人、家族に移行を聞き状態を見極め対応している。申込み時には、様々なサービスがあることを伝え、その時に合ったサービスを提供できるよう努めている。		
18			○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の思いを尊重し、毎日が安心して暮らせるよう実践している。日々のお手伝いを役割と感じてくださっている利用者に対して、職員は感謝の言葉掛け助け合う関係を築いている。		
19			○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	病院への受診など、できるかぎり家族にお願いし外出の機会をもうけ、家族と職員が相談し協力し合い支援している。懇親会を年2回実施し、交流の機会をもっている。		
20	(11)		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今まで暮らしていた近隣の方が面会に来て下さっている。知人の家に出掛けることもある。散髪や病院など今までの環境を変えず、家族と共に支援している。併設施設に知人も居るので交流している。	比較的介護度の低い利用者は、友人宅へ遊びに行き交流を楽しんだり、外泊や墓参りなど、家族や友人との関係性継続を支援している。また同敷地内の法人事業所利用者や、保育所の園児との新たな交流が利用者の楽しみとなっている	
21			○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々、生活する上で、利用者同士が張り合う気持ちを持って、協力し生活できるよう努めている。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22			○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所の次の行先を把握している。入院された方には、常に家族と連絡を取り困ったことを聞きアドバイスしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(12)		○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活での会話を聞き希望、意向を把握している。意思疎通が困難な方には、家族に希望を聞き取り、日常生活での会話、表情を観察し把握するよう努め、家族と協力し叶えるよう努めている。	職員は、個々の性格や得意なこと嫌いなことを考慮し、声かけや会話への配慮を心がけ、意向の把握に努めている。利用者からの要望は、買物や、行事の希望などが多く、具体的な要望の表出が少なくなってきたため、表情や日々の行動から汲み取っている。	利用者の理解を深めるために、生活歴を含めた多方面からの情報収集についてや、共有化の工夫を検討されてはどうか。
24			○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者、家族から入所前に生活歴など情報を頂いている。施設からの入所の方は、サービス担当者から情報提供して頂き、その人らしい生活ができるよう努めている。		
25			○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の有する能力、現状の把握に努め、随時カンファレンスを行い、変化に対応できるよう実践している。		
26	(13)		○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人と家族の意向を介護計画を作成する時以外にも面会や受診に来られた時によく話し合い、変化する状態に合ったケアが出来る様心掛けている。	居室担当者が中心となり、家族や利用者の要望を把握し、介護計画まで携わっている。また、毎月カンファレンスで、介護計画の評価や課題について検討し職員間で共有している。担当者会議に家族や利用者の参加はない。	居室担当者が中心となり、家族、利用者の参加による担当者会議の開催を期待したい。
27			○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子、ケアの実践・結果・気づき・工夫を詳しく個別記録し、業務日誌にも記録している。		
28			○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	基本的に受診は家族の対応になっているが、利用者や家族の状況に合わせ臨機応変に対応している。その他、本人や家族の要望を聞き変わりゆく状況に対応するよう努めている。		

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	隣接施設の子供と交流し、楽しく生活できるよう取り組んでいる。近隣の書道の先生が教室を開いて下さったり、ポラティアの方が音楽療法を開催して下さったり地域の方の協力で日々の生活に楽しみが増すよう支援している。		
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者・家族が希望する病院で受診している。受診は家族にお願いしている。詳しい状況を伝えたい場合は、書面を作成し医師に報告している。家族が遠方の利用者には、特に家族と連携を取り協力し合っている。	これまでのかかりつけ医への受診を、継続して支援している。基本、家族が付き添っているが、やむをえない場合は職員が付き添う。家族には事前に利用者の日々の記録を渡し、必要に応じて事業所からも情報提供している。希望で歯科往診の利用もできる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師1名が勤務しており、利用者の日常の様子を常時、報告している。変化が見られた時は、判断していただき受診などの対応をしている。		
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は、担当医・看護師・介護士から情報収集し、家族と連絡を取り、安心して治療を行えるよう努めている。長期入院で退所した際は、退院後、法人内の病院と施設で良い連携が取れるよう会議を実施している。	今年度は、体調不良、肺炎、骨折等の入院があった。入院時は、職員が適時見舞い、利用者の状態把握、声かけに努めている。退院時の見極め、退院後の事業所での受け入れの有無については、早めに家族と相談し、今後の対応についても不安のないよう配慮している。	
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、週末期のあり方について、事業所のできることを、方針などを説明し、家族の意向を聞き話し合っている。週末期についての勉強会を施設内で行っている。嗜痰吸引の研修に参加し、資格の取得に努めている。	契約時に事業所の方針を説明し、理解を得ている。利用者の状態変化や低下に応じ、利用者や家族の意向を確認、その都度対応を相談するようにしている。職員は法人内及び施設内研修にて学んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事業所内で定期的に勉強会や訓練を実施している。全職員が初期対応できるよう指導し、身に付けている。救命救急講習も受講している。		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	関連施設での火災訓練に参加し、地震・水害の避難場所は市の配布物を参考に避難方法を話し合っている。毎月、施設内で災害・火災訓練を実施。地域住民にも参加していただき消防訓練を実施した。防犯訓練も実施し、刺叉を設置した。	火災や災害等の(夜間想定を含む)訓練を、毎月の研修計画を基に実施している。利用者と共に実践に即して誘導方法を確認している。地域住民の参加協力を得て、利用者の状態把握、誘導後の安否確認等を行うなど、日頃から協力体制を築いている。	

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(18)		○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報や写真掲載については、契約時に説明し同意を得ている。各利用者にあった声掛けや対応に努めている。大きな声で声掛けをしないよう心掛けている。	利用者一人ひとりへの理解を深めるとともに、日常の様子を見て、声かけや関わり方への参考にしている。入浴や排泄時の声かけのタイミングや、その時の周りの状況に応じて、その人に合った対応を心がけている。居室で一人で過ごす時間も大切にしている。	
37			○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者とコミュニケーションを取り、利用者の希望に出来る限り応えるよう支援している。		
38			○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や入浴の時間は決まっているが、その日その時の利用者一人ひとりの体調や気分に合わせて対応している。		
39			○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類等、利用者を選択していただいている。外出時には化粧をされる方もおり、身だしなみも声かけし支援している。		
40	(19)		○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理・盛り付けは、声かけし一緒に行っている。後片付けは、利用者が率先し取り組んでいる。行事や誕生日などでは献立の希望を聞き提供している。食べられない食材・メニューについては、個々に変更している。	可能な限り、利用者には下ごしらえや調理、後片付けに関わってもらなど、自分の役割となっている人もいる。家庭料理を中心に、その人が食べやすいようにやわらかく、一口大に切ったり、美味しく食べれるよう個々に合せた盛り付けの工夫もしている。みんなで食事を楽しんでいる。	
41			○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量は利用者の状態に合わせて調節している。利用者により水分チェック表へ記入し水分量の把握に努めている。		
42			○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者一人ひとりの能力に応じた支援を行っている。義歯の方には、毎晩 義歯を消毒液に浸けている。		

自己	者 第三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、声かけ誘導して排泄の失敗、おむつの使用を減らすよう支援している。職員で話し合い、個々に合った尿パットを使用するよう努めている。	現在のところ、布パンツにパットを使用している人が多い。職員が声かけする場合は、個々の排泄パターンを基に、表情や様子を見て早めに誘導するようにしている。適切なパットの種類や当て方を検討し、失禁を減らすようにしている。夜間はその人の希望に応じて、声かけしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	散歩、体操など運動し、十分な水分補給をして頂き、一人ひとりのチェック表に記入している。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	お湯の温度や入浴時間は、個々の希望を聞き支援している。入浴拒否の方に対しては、機嫌や気分の善し悪しを観察し声掛けしている。入浴が嫌いな方には音楽を流すなど、楽しく入浴できるよう工夫している。	概ね、2日に1回の入浴ペースで支援している。中には、毎日入るお風呂好きな人もいる。それぞれの好みの石鹸やシャンプーを使うなど、利用者のこだわりを大事にしている。普段とは違うゆず湯などの季節風呂を楽しんだり、職員との会話が弾むこともある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間、良眠できるよう日中は散歩や家事などで活動している。無理強いせず、毎日の体調や気持ちに合わせて支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者一人ひとりの薬剤情報提供表にて全職員が把握している。服薬管理できない方には、職員が手渡し服薬確認している。服薬忘れがないように服薬チェック表を使用している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ホーム横の畑にて野菜作りをしており、水やり収穫などしている。一人ひとりの生活歴を家族より聞き、趣味(編み物など)や楽しみごとに取り組んでいる。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	行事などで利用者の行きたい場所の希望を聞き外出支援している。家族の方も外食や実家へ行くなど協力して下さっている。一人暮らしをされていた方には、職員が同行し自宅に帰る支援をしている。	利用者の要望で、化粧品や衣服、靴、食材を買いに行ったり、気分転換にドライブにも行く。周辺をぶらぶら散歩したり、敷地内の畑の手入れを習慣にしている人もいる。通院の際に家族と外食したり、自宅に帰省し家族と過ごすこともある。一人暮らしの利用者の自宅に、郵便物を取りに帰る支援もしている。	



自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理できない方については家族より預かり、買い物時の支払いは自己にて支払って頂くよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族などから荷物や手紙が届いた時など、利用者が電話をしたり手紙を送れるよう支援している。		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールに季節を感じる物を飾っている。共用スペースは清潔を保つよう掃除をしている。室温や湿度は湿温計をチェックし調節している。利用者一人ひとりが居心地の良い場所、良い相手と日々過ごされている。	キッチン、畳スペースが備わったリビングの窓からの眺めは良く、明るい。食後はテレビ前のソファやテーブルで気の合った利用者が談笑している。リビングは日常的に換気を行い空調管理には気を配るなど、快適に過ごせるよう配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファ、食卓椅子、畳の間で利用者が、それぞれ穏やかに思いのまま過ごせるようにしている。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	一人ひとりが必需品、好みの物を持ってこられている。ホームでの写真や家族との写真を居室に飾っている。転倒などを考慮し、安全に生活できるよ家具などの配置をしている。	ベッド、クローゼット、洗面が常設されている。冷蔵庫に好みの果物を入れている人、衣装ケースを机替わりして本を読んでいる人など、思い思いに使い勝手良く工夫している。利用者の習慣や動線に応じ、ベッドや家具等の位置を柔軟に配置し、安全にも気をつけている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの能力に応じて声かけや目印をつけ、安全に生活できるよう常に心がけている。		